

進捗状況の概要

平成 27 年度はスタッツデータの測定を本格化し、前年度に改訂を重ねた「測定シート」および「授業後アンケート調査票」を用いて測定を行った。また、分析手法および結果の活用に関して検討を進め、担当教員にスタッツデータの分析結果を示す「フィードバックシート」および担当教員自身が授業計画と測定結果を比較して授業改善案等を記入する「学習者行動改善シート」を開発した。これにより、授業プログラムや授業進行上の課題を客観的に把握した上で授業改善を図ることができるようになった。

また、アクティブ・ラーニング(AL)・サポート・ツールの運用を開始し、ツールを活用した授業設計・進行のノウハウの収集およびツール活用上の課題・障害などについて調査を実施した。これにより、AL サポート・ツールの活用によってグループワークの発表等の円滑化を図ることができ、教員からのフィードバックの充実など、学生の深い学びを導く教育の実現につながることもわかった。

前年度、シラバスを改訂し、事前・事後課題を含む授業外学習の記述を詳細化し、授業外学習の成果を成績評価の対象とすることにしたが、平成 27 年度は、授業外学習の成績評価の割合を原則として 20%以上にすることを決定し、授業外学習の内容を含むシラバスの記載内容や形式を教員がセルフチェックできるチェックシートを開発し、授業外学習の実質化をさらに推進した。これにより、学生がすべての科目の授業外学習の内容や授業計画を詳細に把握し、学習計画に活かすことができ、学生の授業外学習に対する意識が向上し、授業内外の一体的な学習を通じた深い学びが促進されるようになった。また、学生の授業外の学習時間、リーディング量、ライティング量の全学的調査の実施に向けて試行を行い、調査手法を検討し、調査票を開発した。これにより、適切な量と質のリーディング・ライティングアサインメントを具体的に検討し、授業内外の一体的な学習を通じた深い学びを促進する仕組みづくりが進んだ。

さらに、平成 27 年度は学生の授業外学習のサポートを学習支援センターの中心的活動とすることにし、学生ニーズの高い英会話等に関して課外講座を実施し、学生の主体的学びを促進した。また、学習支援機能充実のための施策として、学生が授業外で他の学生や後輩の学習を支援(ピア・サポート)する学生ボランティア「Shares (シェアーズ)」を組織した。Shares は、学生の視点から、科目における学習のみでは十分に修得することができない計数処理やプレゼンテーションなどに関する講座を企画・開講し、多くの学生に課外での学習の機会を提供した。

加えて、必修科目の出席状況など、学生の学習行動の把握に寄与するデータを特定し、その収集を行い、収集した学習行動データを用いて、アカデミックアドバイザーが学生と面談を行い、学習計画等の指導を行った。また、学生自身が学習計画等をラーニングポートフォリオに入力し、その進捗を自身で管理し、振り返りを行う体制の整備も進めた。これにより、学生自身が過去の履修状況や学修成果に照らして学習計画を立案し、振り返りを行うことができるようになり、主体的学習者としての習慣を身に付けることが促進された。

学修成果の多面的把握の推進の観点から、技能・態度到達度調査(PROG テスト)の対象を拡大し、1 年生に加えて、2,3 年生にも全員受検を義務づけた。これにより、経年での学修成果の把握(パネル調査)が可能となり、本学学生の技能・態度における強み・弱みに応じた授業改善が促進されるようになった。また、学修成果をデータに基づいて可視化できるようになったことで、教員の授業改善に取り組む意欲も高まり、一部の科目では授業プログラムの大幅改編などにつながった。

平成 27 年度は、本学の取組みに興味を持った大学等からの依頼に応じて、取組み内容および成果を講演会・研修会等で発表する機会も得た。